



学校だより

西寺尾第二小学校
3月
令和6年2月26日

安全であること

校長 宮崎 里子

例年より2週間も早い「春一番」が訪れ、スギ花粉に悩まされる季節がやってきたようです。こうして学校だより3月号を書いている今は2月も半ばを過ぎ、6年生は2月19日(月)にグループだけで八景島に行って班行動をする遠足が行われました。また一步卒業に近づいたことを実感します。

この1年間を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、行事や教育活動が「前年以上のどんな取組ができるのか」考えさせられると同時に、「不易と流行」を念頭に置き子どもたちに今、本当に必要な教育を精査していくことが求められていたと思います。

保護者の皆様、地域の皆様には学校からの提案にいつもお力添えをいただき、子どもたちのために尽くしてくださいました。心よりお礼申し上げます。

年度末にあたり学校運営の所感を綴らせていただきます。

私は、学校は何より安全な場所でなければならないと思っています。2月号でお示した「防災教育」は非常時を考え十分備えをし、児童らを守る責務から推進しなくてはなりません。

また、登下校の安全については、多くの保護者の皆様が「旗当番」でご協力下さっているところです。それに加え正門、団地門には街のボランティアでいらっしゃる「見守り隊」の4名の方が毎日子どもたちのために交通整理と挨拶をしてくださっています。ありがたいことです。本校は集団登校ではないため、旗当番は元々、PTAの皆様が「すべての子どもたちを見守ろう」という趣旨で行ってくださっていると伺いました。朝、私も道に出ると、子どもたちはおしゃべりに夢中で道路に大きくはみだし、ひやひやすることもあり



見守り隊の皆様
左から堀江様、中島様、芦部様、田中様

あります。保護者の皆様には、朝の送り出しの時の声掛けや、もしもお時間が許されましたら、子どもたちと一緒に歩いていただくなど、旗当番以外のご家庭のご支援もお願いできましたら幸いです。危ない時には子どもたちにどうぞ声を掛けてください。次年度にかけては通学路についてしっかりと明確にし、引き続き登下校の安全を指導します。



私たちは日々、授業の中でも「安全」を意識しています。指導の際の場の設定は安全か、注意を払います。教職員で知恵を出し合い、学習しやすく、且つ安全であることをいつも考えています。

さらに、学校教育の中で本丸として大切にしたいものに「心理的安全」も挙げられます。教室は安全な場所でしょうか。もちろん、時に友達と喧嘩や意見の食い違いがあるでしょう。しかし、教室は自分の気持ちが伝えられる場所でなければなりません。そして互いの気持ちを受け止め、違いを認め合う場所でもあります。私たち教職員は子どもたちを適切な距離で見守り、必要な時にはしっかりと話を聞いて支援することができているでしょうか。保護者・地域の皆様にはお気付きのことがございましたらどうぞ忌憚ないご意見を下さい。

「安全」ひとつを取り上げてもとりとめとなく、いろいろなことを考えます。まとめの時期にしっかりと振り返ってよりよい新年度を迎えられるよう努力したいと思います。